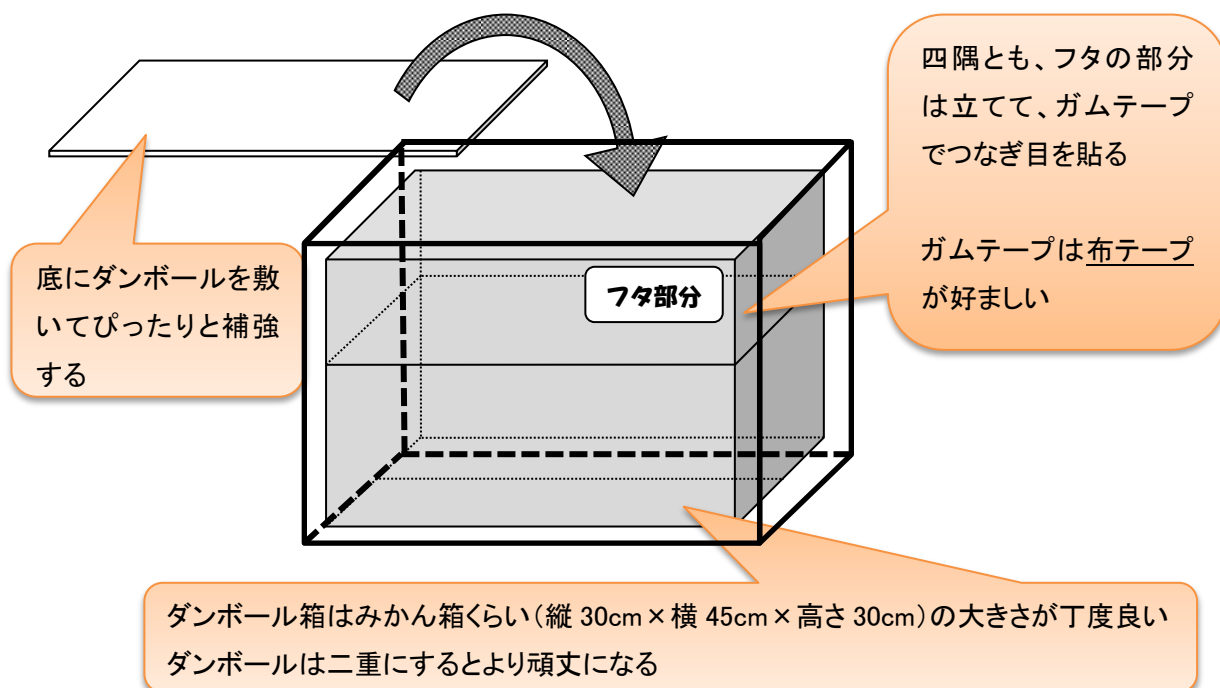


ダンボールコンポストの作り方

① ダンボール箱の準備



② 用意するもの

- ・ピートモス
- ・くん炭
- ・木べら (ゴム手袋)
- ・通気性を良くするための土台
(すのこや箱の四隅に発泡スチロールなどを置いても可)
- ・虫除け用に箱の上にかける風呂敷
(バスタオルやTシャツなど通気性の良いものでも可)

③ 処理方法

- ・最初に基材となるピートモス3 とくん炭2 の割合で混ぜたものをダンボール箱の半分くらいの深さまで入れ、コップ2杯分(約 360ml)の水を加えてよくかき混ぜます。

Step 1 生ごみを入れる

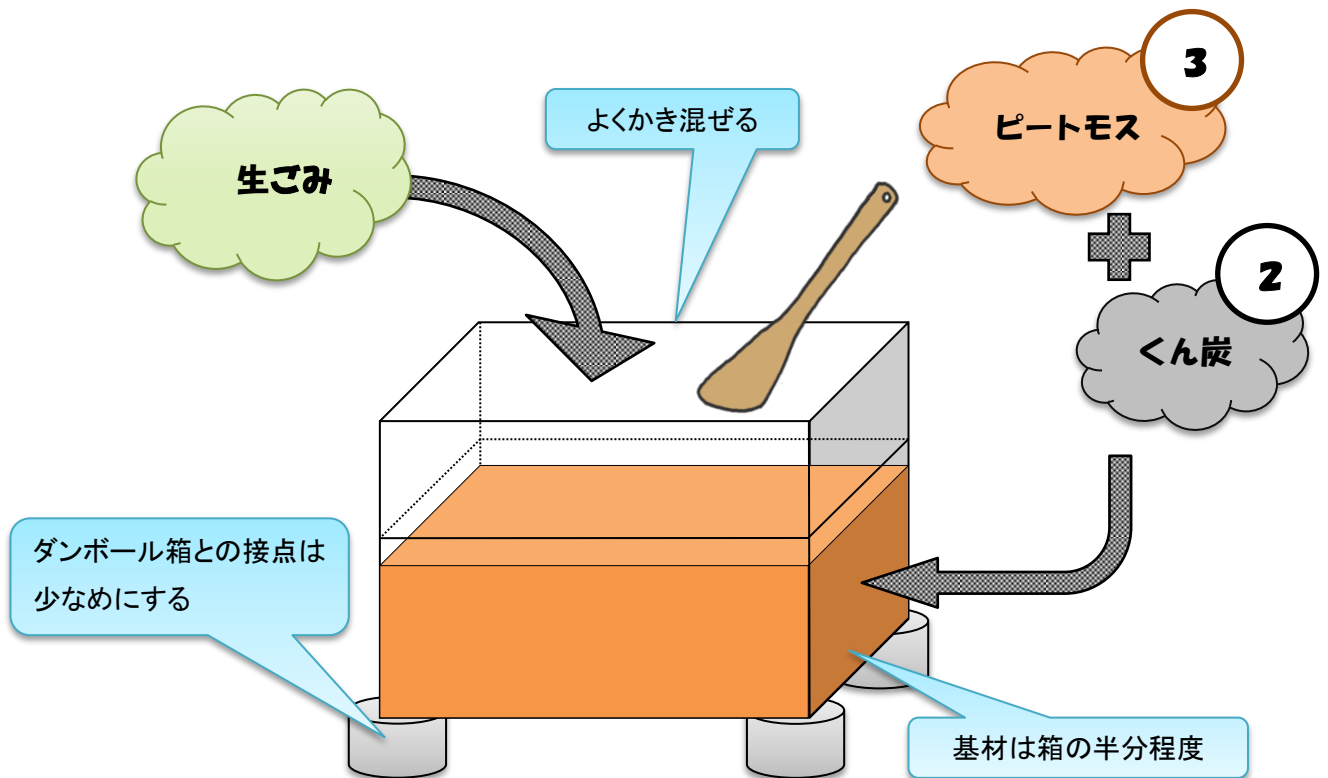
生ごみはよく水を切り、大きい野菜くず等は細かくしてから入れます。一日の投入量は 500g 程度 (三角コーナー 1 杯分)を目安とし、生ごみを入れる度によくかき混ぜ、空気が中に入るようにします。

Step2 ダンボール箱の通気性を良くする

生ごみを入れ終わったら、保温、防臭や虫が入らないようにダンボール箱に風呂敷をかけて通気性を良くします。ダンボール箱は湿気が少なく風通しの良いところに置きましょう。

Step3 毎日のお手入れ

- ・ 基材は数日で温度が上昇します。40℃位が適温ですが、温度が上がらない場合は廃食用油や米ぬかを少量入ると効果的です。
- ・ 生ごみを入れない日も一日一回はよくかき混ぜて空気を取り入れましょう。
- ・ 乾燥している場合は水を少し足しましょう。ただし入れすぎは虫の湧く原因となります。
- ・ 基材は3ヶ月くらい使えます。分解が遅くなり、べたついてきたら交換の合図なので、土と混ぜて1ヶ月程寝かせて置けば良い堆肥として使えます。



④ 注意すること

- ・ 硬い骨、貝殻、たまねぎの皮、とうもろこしの芯や梅の種などは分解できません。また塩分を大量に含むものは堆肥に不向きなので入れないようにしましょう。
- ・ 生ごみはよく水を切って入れましょう。
- ・ 冬場は温度が低いので分解するのに時間がかかります。